

セルドロンエチオピアへ



政権が長期に渡るとほぼ確実に民衆に不満が満ち溢れ、その人が現体制を取り崩してトップまで駆け上ったが如く、その人は次のリーダーに取り崩されてしまうもので、特に東南アジア中南米、中近東では近年それが多く見受けられた。

一方、我が第二の故郷マレーシアでは、九十二歳のマハティール氏が見事、総選挙の上でリーダーに返り咲いた。

1990年代のマレーシアの躍進を支え、アジア通貨危機の際には世界に向けてその異彩を放ち、1981〜2003年の22年間、民衆から指示された彼がまた求められて帰ってくるうれしくもあり、なぜか誇らしくもある。

さて、我らがセルドロン。

京都大学大学院・木村研究室と共同研究をさせて頂いているのは何度もお知らせしていると思うが、このたび平成30年度、JAICAとJSTの共同事業「地球規模課題対応 国際科学技術協力プログラム(SATREPS)」の防災分野においてセルドロンを利用した提案が採択された。と、サラッと書いているが、これはかなり大きな出来事である。
概要はこちらをご覧ください
<http://www.jst.go.jp/pr/info/info1317/besshi2.html>

ひとたび乾いてしまうとカッチンカッチンになり、逆に雨が降るとグッチョグッチョになってしまうブラックコットンソイル(亜熱帯やサバンナ地帯によくある黒い粘土質土壌)を、セルドロンで改良し、現地の防災に役立てようというもの。

また、既存のセルドロンは古紙を微細加工している分けだが、今回の研究においては現地の植物やなんらかの廃材からセルドロンと同等の効果を得られる製品を開発してみようという新たな

なチャレンジも加わっている。

研究実施期間は5年間ながら、同土質が多くある亜熱帯やサバンナ地帯は、いわゆる発展途上国であり、この間の成果次第では全世界に広がりを見せる可能性をも秘めているのである。

先月の余剰生コン処理と言い、今回の世界への第一歩と言い、セルドロン事業は少しづつ少しづつ前に進んでいる。

藤井 成厚



セルドロンラインナップ

- 5kg 在庫限り
- 10kg
- 100kg 在庫限り
- 300kg

使用量によってサイズを選べます。

セルドロンフェイスブック更新中
日々セルドロン関係の情報発信しております。過去の事例やお得な情報など更新しておりますのでぜひ確認ください。

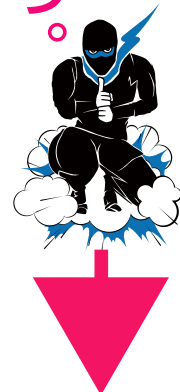
残コンにセルドロン

先月でも取り上げさせて頂きましたが、残コン用途の問い合わせを多くいただいております。弊社としても現場でセルドロンが役に立っておりうれしく思います。ありがとうございます。

問い合わせの多い内容としては、現場で発生する残コン(アジテータ車から排出されポンプ圧送車などに残ってしまった生コンクリート)の現場処理に困っている。

困っている理由には次の点があげられます。

- ・流動性が高く場所を取る。
- ・翌日以降に、固い塊になってしまう。



この困っている点を改善できるのが、セルドロンです。セルドロンを残コンへ攪拌すると、流動性が低下し、碎石状に硬化いたします。

生コンクリートにセルドロンを混ぜた画像



以前に静岡県で、セルドロン攪拌した処理物を、盛土材料取扱基準と照らし合わせて、適合性を確認したことがありました。

路床材料		
項目	セルドロン18kg	
	結果	判定
①4750μmフルイ 25~100	43.6	OK
②75μmフルイ 25以下	0.8	OK
③PIが10以下	NP	OK
④変状土CBR20以上	44.2	OK
⑤最大粒径100mm	26.5	OK

路体材料		
項目	セルドロン18kg	
	結果	判定
①75μmフルイ 50以下	1.8	OK
③PIが30以下	NP	OK
④変状土CBR5以上	44.2	OK
⑤最大粒径300mm	26.5	OK

すべての項目で規格を満足する結果でした。この結果から場内で再利用できるものとしても考えられます。

先月号でもご案内した通り、残コンは現場で処理することが求められてきております。ぜひセルドロンを一度お試し下さい。

そのほかにも、現場で発生する流動性が高いものは扱いづらくて困っていると思いますが、セルドロンがあればすぐに流動性を低下させることが出来ます。先行モルタル、セメントミルク、カッター排水、汚泥、堆積汚泥など。どのようなものでもお試しください。



セルドロンフェイスブック更新中

日々セルドロン関係の情報発信しております。過去の事例やお得な情報など更新しておりますのでぜひ確認ください